

## 第 2 回内山下構造検討委員会議事要旨

### 議 事 要 旨

#### 【日時及び場所】

日 時 : 平成 30 年 3 月 8 日 (木) 13:30~14:30  
場 所 : 内山下地区現地

#### 【出席委員・オブザーバー】

委 員 : 竹下 祐二 (岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授)  
田中 哲雄 (日本城郭研究センター 名誉館長)  
前野 詩朗 (岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授)  
オブザーバー : 柴田 英樹 (岡山県教育庁文化財課 課長 (代理) 総括副参事)  
乗岡 実 (岡山市 教育委員会 文化財課 課長)

#### 【内 容】

1. 現況石積み護岸のトレンチ調査 (3 箇所) の現地確認
  - ・ 3 箇所のトレンチ調査の結果、現況石積み下端部に胴木はなく、護岸高 TP+0.4m 程度でほぼ一定であること、石積みの前面に練石張りがあることを確認頂いた。
  - ・ 相生橋~NO.18+7 付近は流下能力の面より前出しは困難であり、第 1 案の前出し案、第 2 案の引き堤案も同様の構造となり、現況石積みから嵩上げする計画であることを確認頂いた。
  - ・ 第 2 案の引き堤案は、既設石積みの法肩の樹木撤去 (根) のため、上部の石積みの取り壊し・復旧が必要となること、築堤盛土によりが堤内地の史跡への影響が大きいことを確認頂いた。

## 2. 現地視察後の意見

### 【委員】

- ・ 胴木は軟弱地盤上で設置することが多く、当該箇所は砂地盤のため確認されなかったと考えられる。

### 【委員】

- ・ 石積み前面の練石張りは、比較的新しい年代のものであり、石積みの保護のために設置されたと考えられる。練石張りは試掘部の範囲は確認できたが、石積み前面を保護する目的で河床付近まで設置されていると考えられる。

### 【委員】

- ・ 相生橋～NO.18+7 付近の現況石積から嵩上げ構造はどういう構造となるか？

### 【事務局】

- ・ 当区間は背後地盤高が高く、盛土高も低いため、嵩上げによる石積みへの影響は少ないと考えられる。今後、嵩上げ構造や既設石積への影響について検討する。

### 【委員】

- ・ 第1案の前出し案の場合、既設石積背後からの排水処理はどうなるのか？
- ・ 堤防天端については舗装を行うのか？車両は通行するのか？

### 【事務局】

- ・ 盛土内の浸透量はわずかなものであり、現状でも石積みからも水が染み出ていないため、問題ないと考えられる。
- ・ 堤防天端は雨水の堤体内への浸透を防ぐため、舗装またはコンクリート等の処理を考えているが、車両は通行させない。

## 3. 意見とりまとめ：事務局

- ・ トレンチ調査の現地確認、比較案に対して意見を頂いた。
- ・ 次回の第3回委員会にて、第1案の前出し案、第2案の引き提案、第3案の完全前出し案について方針を決定する。

以 上